Kansai Economic Insight Monthly

2018/9/25
Vol.65 August/September

▼ APIR "Kansai Economic Insight Monthly"は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼レポート公開時期は毎月第 4 週を予定しています。

▼執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR 数量済分析センター長)、木下祐輔(APIR 調査役)・生田祐介・Cao Thi Khanh Nguyet・馬騰(各 APIR 研究員)及び豊原法彦(関西学院大学教授)です。

▼本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の 2 府 4 県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドと CI,CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	10
中国景気モニター	11
主要月次統計	15
Release Calendar	16

要 旨

- 景気は足下先行きともに悪化傾向が続く※-

✓ 7月の鉱工業生産指数は2カ月ぶりに前月比マイナス。4-6月平均比でも低下し、7-9月期の最初の月としては低調であったが、近畿経産局は生産の基調判断を前月から据え置いた。

✓ 8月の貿易収支は7カ月連続の黒字となり、黒字幅も前年比拡大した。エネルギー価格高騰により輸入が伸びたものの、好調な半導体関連の需要で輸出の伸びがそれを上回ったため。

✓ 8月の景気ウォッチャー現状判断DIは、2カ月ぶりの前月比改善。相次ぐ自然災害に加え、8月は連日の猛暑で様々な業種に悪影響が出た。しかし、落ち込んでいたインバウンド需要が戻ったことが好感され、DIは改善した。

✓ 6月の関西2府4県の現金給与総額は16カ月連続の前年比増加。実質現金給与総額は同横ばいで、4カ月連続で1%未満の伸びにとどまっている。

✓ 7月の大型小売店販売額は2カ月ぶりの前年比マイナス。スーパーでは猛暑で飲食関連商品が好調だったが、百貨店では豪雨や台風、バーゲン前倒しによる買い控えの影響が大きかったため。

✓ 7月の新設住宅着工戸数は2カ月連続の前年比マイナス。個人向けアパートローン融資額の減少による貸家の着工の減少が影響した。

✓ 7月の有効求人倍率は2カ月連続の前月比改善。労働需給は引き締まった状態にある。完全失業率も2カ月ぶりに改善しており、雇用情勢は引き続き堅調である。

✓ 8月の公共工事請負金額は3カ月ぶりに前年比マイナスに転じた。大阪府北部地震や台風21号からの復旧・復興関連作業で、関西の公共工事は増加すると見込まれる。

✓ 8月関空の訪日外客数は18カ月連続で前年比増加したものの、大阪北部地震や西日本豪雨等による影響で、2カ月連続で1桁の伸びにとどまった。

✓ 中国の8月の貿易収支は5カ月連続の黒字となった。なお、対米貿易収支は、駆け込み輸出増の影響もあり黒字が拡大。米中貿易戦争の影響は年後半にかけて顕在化すると見られる。

※景気の基調判断はAPIR(豊原法彦関西学院大学教授)開発の関西景気動向指数(CI, CLI)に基づいている。

【関西経済のトレンド】

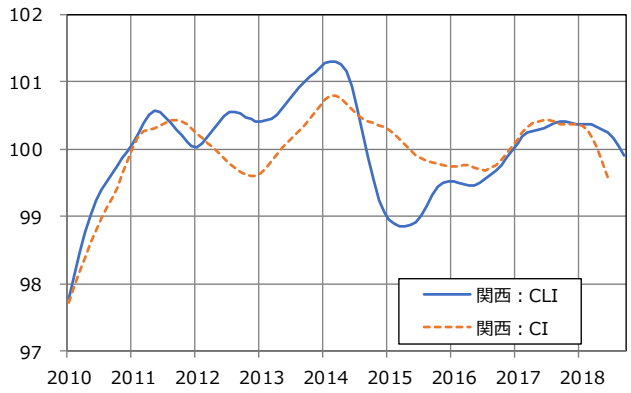
	2017年					2018年							
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
生産	↗	↘	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↘	↗	↘	
貿易	↗	↗	→	↗	→	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗
センチメント	↘	→	↗	↗	↗	↘	↘	→	→	↘	↗	↘	↗
消費	→	↗	→	↗	→	→	→	→	→	↘	→	↘	
住宅	→	→	→	→	↘	↘	↗	↘	↗	↗	→	→	
雇用	→	↗	↗	↗	↗	↗	→	↗	↘	→	↗	↗	
公共工事	↘	↘	↗	↗	→	↗	↘	→	→	↘	↗	↗	↘
中国	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	↘	↘	→

(＊トレンドの判断基準)

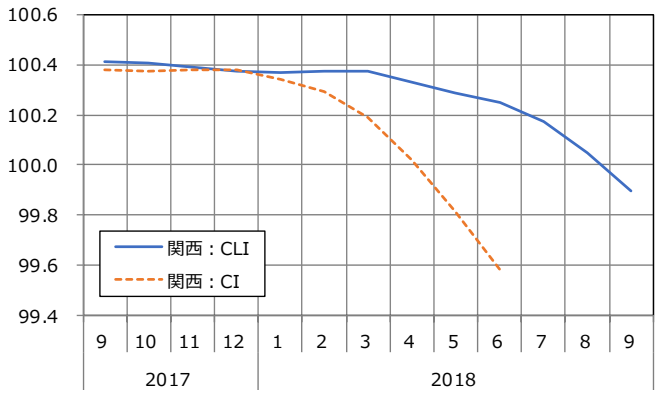
- **生産**：近畿経済産業局『近畿地域鉱工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- **貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から 500 億円以上の改善は上向き、同 500 億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- **センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DI が前月比で 1 ポイント以上の改善は上向き、1 ポイント以上の悪化は下向き、それ以外 は横ばい。
- **消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で 1%以上増加していれば上向き、同 1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- **住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で 5%以上増加していれば上向き、同 5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- **雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で 0.01 ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01 ポイント以上の悪化は下向きとする。
- **公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で 5%以上増加していれば上向き、同 5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI 一致指数・試作 CLI)の推移】

CI 一致指数・試作 CLI の推移(2010 年 1 月～2018 年 9 月)



直近 1 年間の CI・CLI の推移(2017 年 9 月～2018 年 9 月)



【鉱工業生産動向】

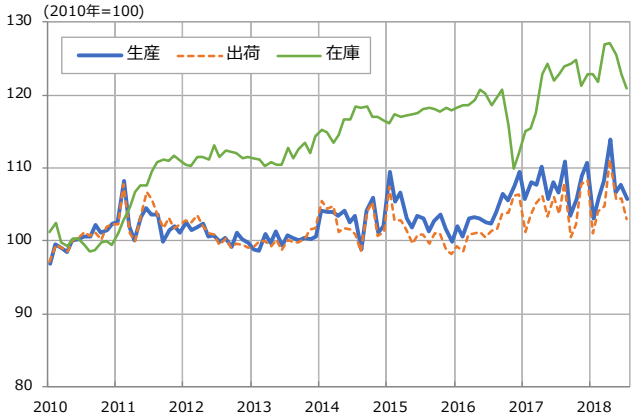
（1） 関西の生産動向

関西 7 月の鉱工業生産動向(速報値：季節調整済、2010 年=100)によれば、生産は 105.7 で、前月比-1.9%と 2 カ月ぶりの低下。出荷は 103.0 で、同-2.7%と 2 か月ぶりの低下。在庫は 121.0 で、同-1.5%と 3 カ月連続で低下した。近畿経済産業局は同月の基調判断を「生産は緩やかな持ち直しの動きで推移している」と前月から据え置いた。7 月の生産は 4-6 月平均比-3.4%と低下しており、7-9 月期の最初の月としては低調である。

なお、生産と強い関係がある実質輸出(季節調整済、2015 年=100)を見ると、7 月(確報値)は 112.3 で、前月比-0.8%と 3 カ月連続のマイナスとなっている。このため、7 月の実質輸出は 4-6 月平均比-1.5%と低下した。

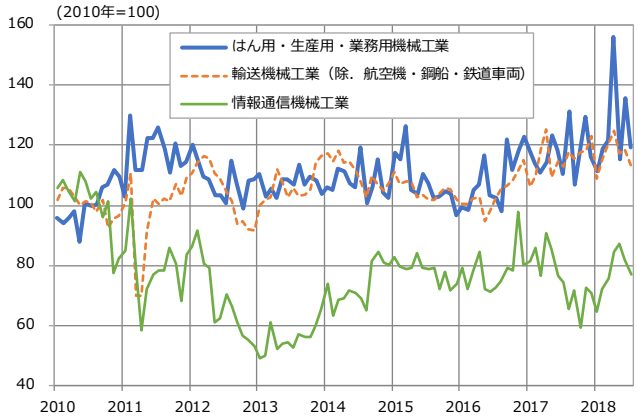
7 月の生産指数を業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(前月比-12.0%、2 カ月ぶり)、輸送機械（除.航空機・鋼船・鉄道車両）(同-4.8%、2 カ月ぶり)、情報通信機械(同-6.2%、2 カ月連続)、鉄鋼(同-4.1%、2 か月ぶり)等が減産となった。一方、金属製品(同+15.5%、3 カ月ぶり)、電気機械(同+6.1%、4 カ月ぶり)、化学工業(除.医薬品) (同+1.8%、3 カ月ぶり)等が増産となった。

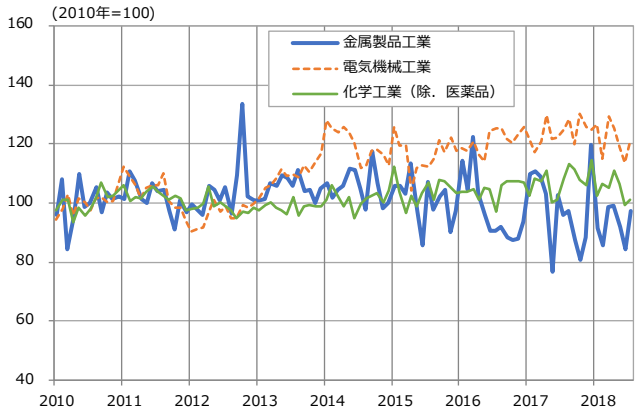
関西の鉱工業生産動向の推移(2010 年 1 月～2018 年 7 月)



(注) 福井県を含む。
(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2010 年 1 月～2018 年 7 月)





(注) 福井県を含む。
(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

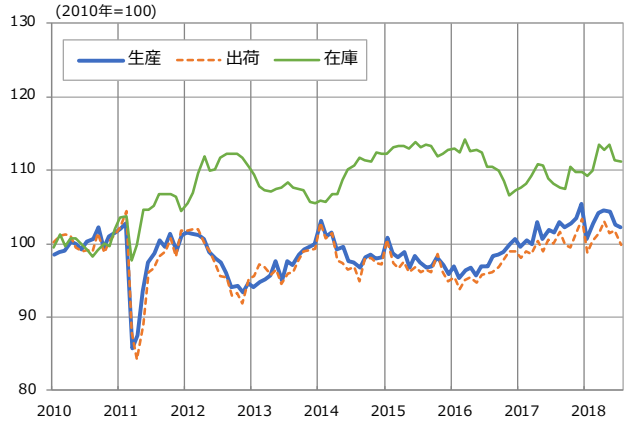
（2） 全国の生産動向

全国 7 月の鉱工業指数(確報値：季節調整済、2010 年=100)を見ると、生産は 102.3 で前月比-0.2%と 3 カ月連続の低下。出荷は 99.8 で同-2.0%と 2 カ月ぶりの低下。在庫は 111.2 となり同-0.2%と 2 カ月連続で低下した。

業種別にみると、輸送機械(前月比-4.2%)、はん用・生産用・業務用機械(同-2.1%)、鉄鋼(同-4.9%)等が減産となった。一方、化学(同+3.9%)、情報通信機械(同+7.8%)電子部品・デバイス(同+1.8%)が増産となった。

製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、8 月は前月比+5.6%、9 月は同+0.5%といずれも増産が予測されている。予測が実現すれば、7-9 月期の生産は 4-6 月期比+0.5%となり、小幅の増産が見込まれる。なお 7 月実績を 4-6 月平均と比較すれば-1.5%低下と厳しい状況である。

全国の鉱工業指数の推移(2010 年 1 月～2018 年 7 月)



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

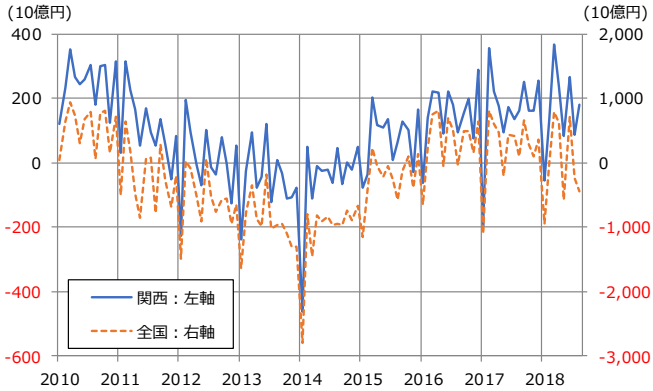
【貿易動向】

（1）純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西 8 月の貿易収支は+1,796 億円と 7 カ月連続の黒字となった。黒字幅は前年同月(+1,619 億円)と比べて+10.9%と拡大した。半導体関連の需要が好調で輸出の伸びが、エネルギー価格高騰にもかかわらず輸入の伸びを上回ったためである。

また、全国 8 月の貿易収支(速報値)は、-4,446 億円と 2 カ月連続の赤字となった。貿易収支は前年同月(+968 億円)から 5,414 億円縮小した。

関西・全国の貿易収支の推移(2010 年 1 月～2018 年 8 月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

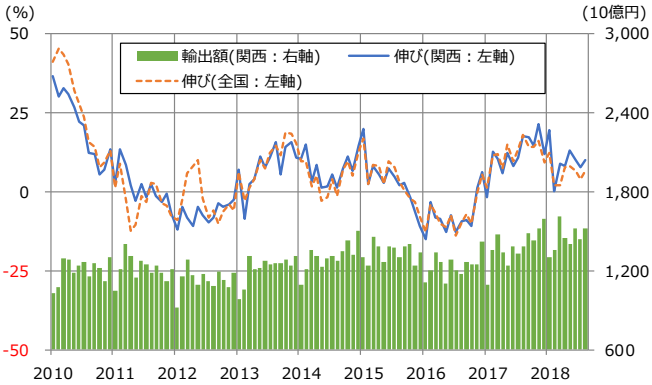
（2）輸出

関西 8 月の輸出額(速報値)は 1 兆 5,193 億円で、前年同月比+9.9%と 6 カ月連続の増加。財別にみれば、半導体等製造装置、原動機が好調で、いずれも単月で最高値を記録した。米中貿易戦争の影響が懸念されるが、中期的に見て中国を中心とするアジア向けに IT 関連需要が強い。

なお、日銀の実質輸出(季節調整値、2015 年平均=100)によると、8 月(速報値)は 114.4 となり、前月比+1.9%上昇した。4 カ月ぶりのプラス。しかし、7-8 月平均は 4-6 月平均比-0.5%と低下した。

全国 8 月の輸出額(速報値)は 6 兆 6,916 億円で、前年同月比+6.6%と 21 カ月連続の増加。財別に見れば、半導体等製造装置、自動車、船舶等が増加した。

関西・全国の輸出の推移(2010 年 1 月～2018 年 8 月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

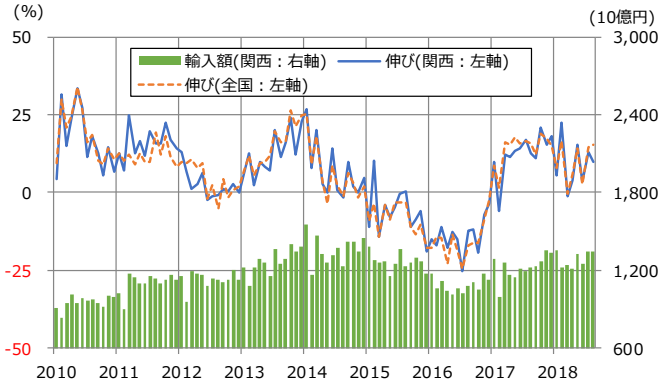
（3）輸入

関西 8 月の輸入額(速報値)は 1 兆 3,397 億円、伸びは前年同月比+9.8%と 5 カ月連続で増加した。財別にみれば、エネルギー価格高騰のため、天然ガス及び製造ガス、原油及び粗油等が増加した。

なお、日銀の実質輸入(季節調整値、2015 年平均=100)によると、8 月(速報値)は 103.3 となり、前月比-0.7%低下した。3 カ月連続のマイナス。また、7-8 月平均は 4-6 月平均比-1.0%低下した。

全国 8 月の輸入額(速報値)は 7 兆 1,362 億円で、前年同月比+15.4%と 5 カ月連続の増加。財別に見れば、原粗油、液化天然ガス、石炭等が増加した。

関西・全国の輸入の推移(2010年1月～2018年8月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

（4）関西の地域別貿易

関西8月の貿易収支を地域別に見ると、対アジア(含中国)の貿易収支は+2,648億円と19カ月連続の黒字であり、黒字幅は前年同月比+1.0%小幅拡大した。輸出(1兆203億円)は6カ月連続の増加(同+7.7%)。財別に見れば、半導体等製造装置、電気回路等の機器等が増加した。輸入(7,556億円)は5カ月連続の増加(同+10.3%)。財別に見ると、通信機、天然ガス及び製造ガス等が増加した。

うち、対中貿易収支は-88億円と2カ月連続で赤字となった(前年同月差-67億円)。輸出(3,937億円)は6カ月連続の増加(前年同月比+4.4%)。財別に見ると、半導体等製造装置,電気回路等の機器等が増加した。輸入(4,025億円)は5カ月連続の増加(同+6.1%)。財別に見ると、通信機、事務用機器等が増加した。

対米貿易収支は+817億円となり、対前年比黒字幅は2カ月ぶりに拡大した(同+22.2%)。輸出(2,098億円)は5カ月連続の増加(同+17.1%)。財別に見れば、医薬品、無機化合物等が増加した。輸入(1,281億円)は2カ月連続の増加(同+14.1%)。財別に見れば、天然ガスおよび製造ガス、有機化合物等が増加した。

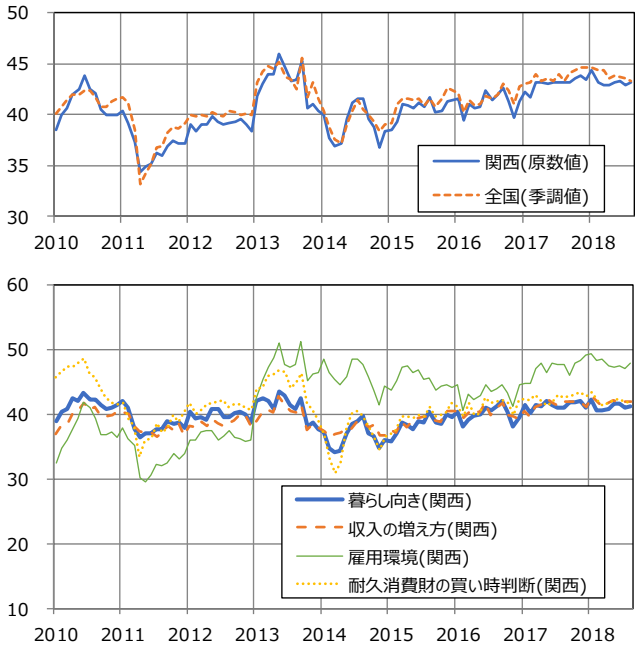
対EU貿易収支は+58億円と2カ月ぶりの黒字となった。貿易収支は前年同月(-154億円)から+212億円改善したためである。輸出(1,521億円)は16カ月連続の増加(前年同月比+15.7%)。財別に見れば、遊戯用具、事務用機器等が増加した。輸入(1,463億円)は4カ月ぶりの減少(同-0.4%)。財別に見れば、医薬品、たばこ等が減少した。

【消費者センチメント】

（1）消費者態度指数の動向

関西8月の消費者態度指数(原数値)は43.2と前月比+0.3ポイント上昇し、2カ月ぶりに改善した。同指数構成項目の内訳を見ると、「雇用環境」(47.9)は同+0.9ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。「暮らし向き」(41.2)は同+0.3ポイント上昇し、3カ月ぶりの改善。一方、「収入の増え方」(41.8)は同横ばい。「耐久消費財の買い時判断」(41.7)は同-0.2ポイント低下し、2カ月連続の悪化であった。

消費者態度指数の推移(2010年1月～2018年8月)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

一方、全国(季節調整値)は43.3と前月比-0.2ポイント低下し、3カ月連続で悪化した。同指数構成項目4指標のうち、3項目が低下した。内訳を見ると、「収入の増え方」(41.8)は同-0.4ポイント低下し、2カ月ぶりの悪化。「雇用環境」(47.7)は同-0.3ポイント低下し、2カ月連続の悪化。「耐久消費財の買い時判断」(42.0)は同-0.2ポイント低下し、3カ月連続の悪化。一方、「暮らし向き」(41.7)は同+0.1ポイ

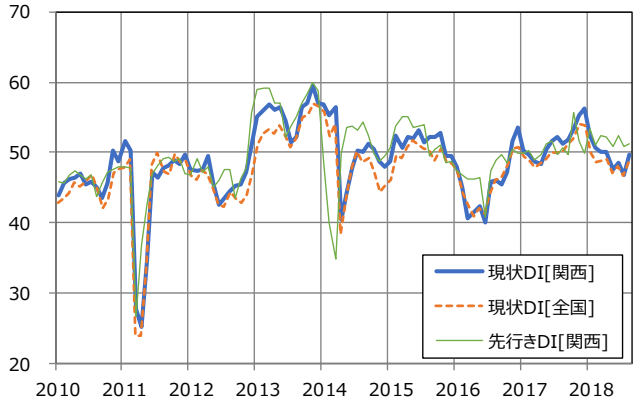
ント上昇し、3 カ月ぶりの改善。「収入の増え方」指標が低下したのは、前月にボーナスの増加で上昇した反動によるもの。内閣府は基調判断を「弱い動きがみられる」と 4 カ月ぶりに下方修正した。

（2）景気ウォッチャー指数の動向

関西 8 月の景気ウォッチャー現状判断 DI(季節調整値)は 49.6 と前月比+2.9 ポイント上昇し、2 カ月ぶりに改善したものの、景況感の良し悪しの分かれ目となる 50 を 4 カ月連続で下回った。大阪北部地震や西日本豪雨、台風に加え、8 月は連日の猛暑で様々な業種に悪影響が出た。しかし、6-7 月と落ち込んでいたインバウンド需要が 8 月は戻ったことが好感され、現状判断 DI は改善した。また、全国の同指数は 48.7 と同+2.1 ポイント上昇し、2 カ月ぶりの改善となったものの、8 カ月連続で 50 を下回る状態が続いている。

先行き判断 DI(季節調整値)は、関西では 51.2 と前月比+0.4 ポイント上昇し、2 カ月ぶりの改善。残暑による影響や生鮮野菜の不作による価格高騰などの懸念はあるものの、豪雨や災害による影響が落ち着くことへの期待や、インバウンド需要が再び拡大するといった期待から小幅改善した。全国は同+2.4 ポイント上昇し 51.4 となり、2 カ月ぶりの改善であった。

景気ウォッチャー調査の推移(2010 年 1 月～2018 年 8 月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

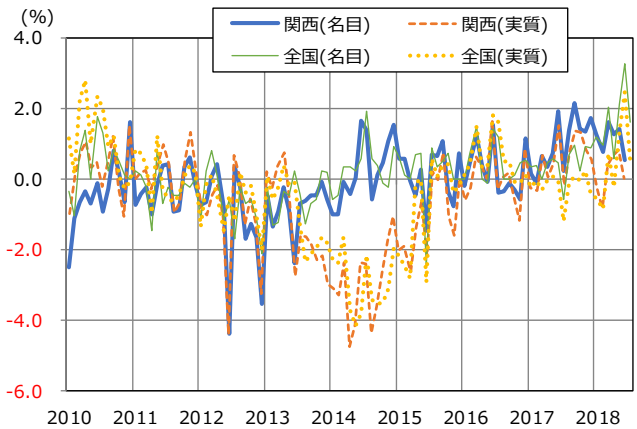
【所得・個人消費】

（1）現金給与総額

関西 2 府 4 県の 6 月の現金給与総額(APIR 推計)は 44 万 2,892 円で前年同月比+0.5%となり、16 カ月連続の増加。府県別では、奈良県が前年同月比+5.5%(3 カ月ぶり)、大阪府が同+2.6%(13 カ月連続)、兵庫県が同+1.3%(11 カ月連続)、和歌山県が同+1.2%(2 カ月連続)と増加した。一方、京都府が同-5.4%(2 カ月連続)、滋賀県が同-1.1%と 6 カ月連続で減少した。また、京都・大阪・兵庫の加重平均をとった 6 月の「関西コア」賃金指数(APIR 推計)は前年同月比+0.4%増加し、14 カ月連続の改善であった。関西 2 府 4 県の現金給与総額から物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた 6 月の実質現金給与総額(実質賃金)は前年同月比横ばい。4 カ月連続で 1%未満の伸びにとどまった。

全国 7 月の現金給与総額(確報値)をみると、前年同月比+1.6%(速報値：同+1.5%)と増加し、12 カ月連続の改善。内訳をみると、所定内給与は同+1.0%と 16 カ月連続の増加。所定外給与は同+1.6%と 9 カ月連続の増加。特別給与は同+2.8%と 3 カ月連続で増加した。実質現金給与総額(実質賃金)は同+0.5%と 3 カ月連続で増加したものの、前月(同+2.5%)から伸びは減速した。厚生労働省は賃金動向について、「基調は緩やかに増加している」と判断を据え置いた。

現金給与総額の推移(2010 年 1 月～2018 年 7 月)

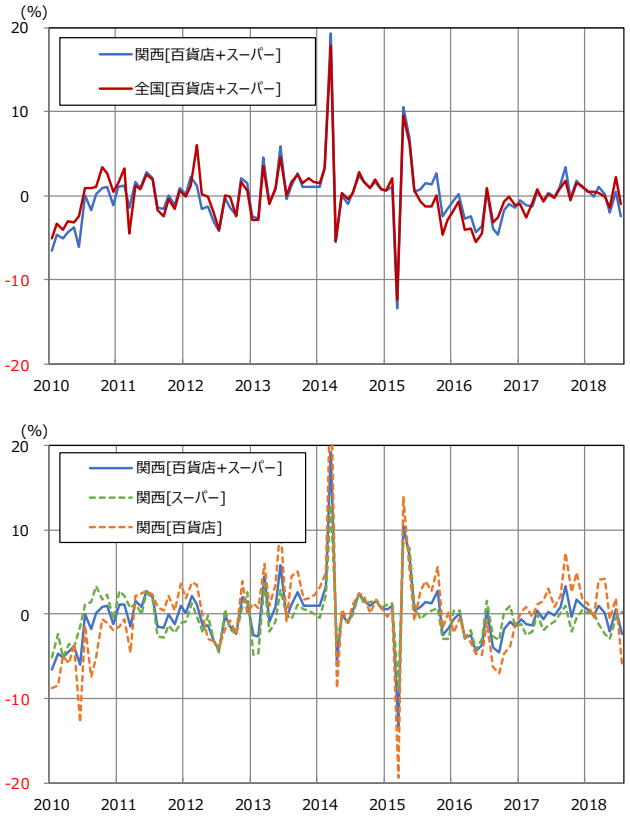


(注)関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)は APIR 推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011 年平均)で加重平均。
(出所)厚生労働省「毎月勤労統計調査」，総務省「消費者物価指数」より作成

（2）大型小売店販売額

関西７月の大型小売店(百貨店＋スーパー)の販売額(全店ベース)は 3,310 億円となり、前年同月比-2.4%と 2 カ月ぶりのマイナス。うち、百貨店は同-6.0%と、2 カ月ぶりの大幅マイナス。上旬の豪雨や下旬の台風 12 号の影響の他、バーゲン前倒しによる買い控えが影響したため。なお、関西の百貨店免税売上(日銀大阪支店)によると、7 月は同+16.8%(6 月:同+46.3%)と 21 カ月連続の増加。しかし、増加幅は２カ月連続で減速した。売上件数も減速しているが、単価が 15 カ月ぶりに減少(同-6.7%)したのが気になるところである。また、スーパーは同+0.3%と５カ月ぶりのプラス。猛暑によりアイスや飲料などが好調であった。

大型小売店販売額の推移(2010 年１月～2018 年７月)



(注) 福井県を含む。　(出所) 経済産業省「商業動態統計」

全国７月の大型小売店販売額(全店ベース)は１兆 7,002 億円、前年同月比-1.0%と２カ月ぶりのマイナス。うち、百貨店は同-6.5%と２カ月ぶりのマイナス。また、スーパーは同+1.9%と２カ月連続のプラス。なお、小売業販売額(季節調整済指数、後方３カ月移動平均)は前月比-0.1%と２カ月ぶりに低下した。経済産業省は基調判断を、「横ばい傾向にある」と前月から据え置いた。

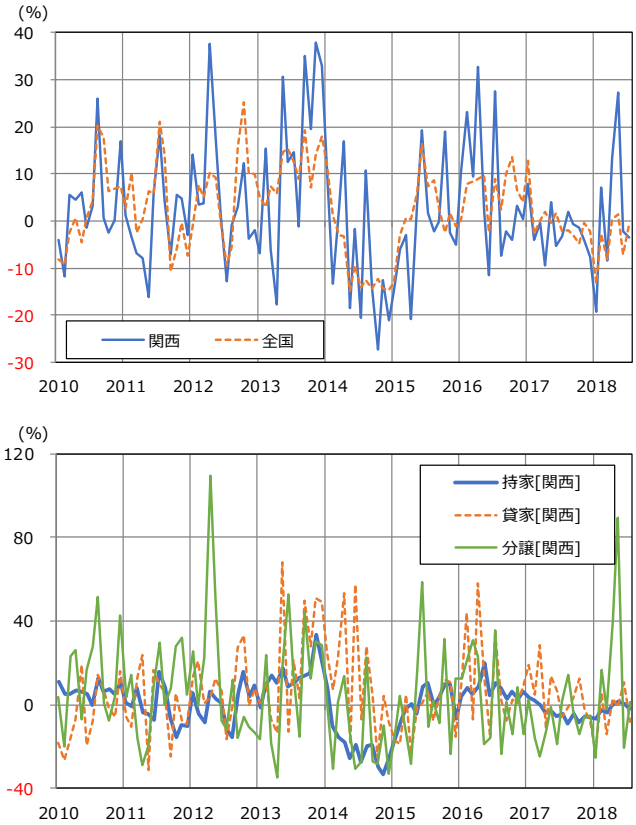
【住宅投資】

（1）新設住宅着工の動向

関西 7 月の新設住宅着工戸数は 12,151 戸と前年同月比-3.6%と２カ月連続で減少。貸家の着工の減少が影響した。

関西の住宅着工戸数を利用関係別にみると、分譲は前年同月比+1.3%と前月(同-20.7%)から回復 4,302 戸となり、２カ月ぶりのプラス。うち、マンションは 2,493 戸で同+9.5%と前月(同-39.5%)から回復した。一方、持家は 3,049 戸で同-2.1%と４カ月ぶりの減少となった。貸家は 4,786 戸で同-8.5%と２カ月ぶりの減少。着工総数は、4-5 月の大幅な増加から、２カ月連続で減少した。今後、消費税増税前の駆け込み需要の影響がどうなるか、引き続き注意が必要である。

新設住宅着工戸数の推移(2010 年１月～2018 年７月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

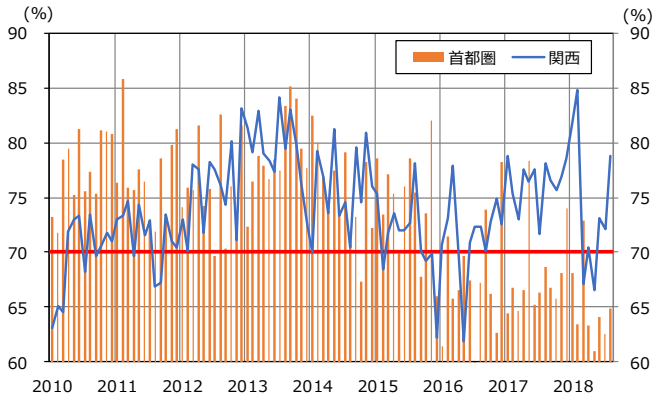
全国の同月の新設住宅着工戸数は82,615戸となり、前年同月比-0.7%と2カ月連続の減少。利用関係別にみると、持家は増加、分譲と貸家は減少した。持家は 25,447 戸で同+0.3%と6カ月ぶりの増加。貸家は35,847戸で同-1.4%と14カ月連続の減少となった。分譲は20,885戸で同-0.7%と2カ月連続の減少。個人向けアパートローン融資額が減少傾向にあるため、貸家の着工が減少した。同様に、関西でも着工が減少しているとみられる。

（2）マンション市場動向

関西8月のマンション契約率は78.8%(季節調整値:APIR推計)となり、前月(72.1%)から+6.7%ポイント上昇した。伸びは2カ月ぶりに加速し、好不調の目安となる70%を3カ月連続で上回った。背景には、コンパクトマンションの供給が大幅に増加し、全体の数字を牽引した。

一方、同月の首都圏のマンション契約率は64.9%(季節調整値：APIR推計)と前月比+2.3%ポイントと2カ月ぶりのプラスとなったが、5カ月連続で70%を下回った。関西は首都圏と比べ、販売価格の上昇が緩やかであるため、契約率は堅調に推移している。

関西･首都圏のマンション契約率の推移(2010年1月～2018年8月)



(出所) 株式会社不動産研究所「マンション市場動向」

【雇用動向】

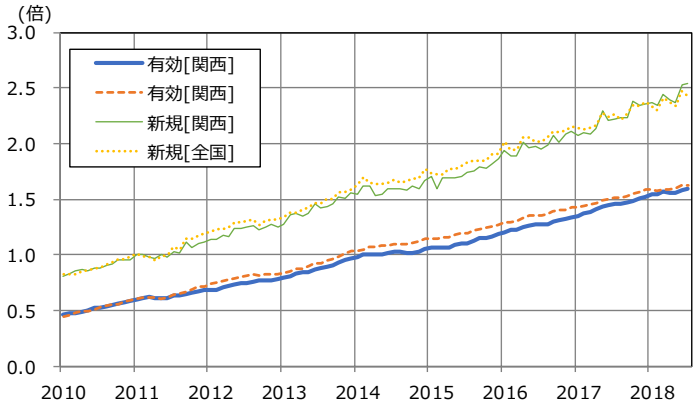
（1）求人倍率の動向

関西7月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.60倍で前月比+0.02ポイント小幅上昇し、2カ月連続の改善。内訳をみると、有効求人数が同-0.5%と5カ月ぶりの減少、有効求職者数も同-1.4%と2カ月連続で減少しており、労働需給は引き締まった状態が続いている。府県別に見ると、京都府を除く5府県で上昇した。和歌山県が1.33倍と同+0.05ポイント、滋賀県が1.42倍で同+0.03ポイント、大阪府が1.76倍で同+0.02ポイント、兵庫県が1.45倍で同+0.02ポイント、奈良県が1.48倍で同+0.01ポイント上昇した。一方、京都府では1.56倍で同-0.01ポイント小幅低下した。

また、関西7月の新規求人倍率は2.54倍で前月比+0.01ポイント小幅上昇し、2カ月連続の改善。新規求人数が同+1.1%と2カ月連続で上昇し、新規求職者数は前月(同-4.4%)の反動もあり同+0.5%と3カ月ぶりに小幅上昇した。雇用情勢は堅調である。

全国7月の有効求人倍率(季節調整値)は1.63倍と前月比+0.01ポイント小幅上昇し、3カ月連続の改善。新規求人倍率は2.42倍で同-0.05ポイント低下し、2カ月ぶりに悪化。

求人倍率(受理地別)の推移(2010年1月～2018年7月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(下の表も同様)

関西2府4県有効求人倍率(2018年6～7月)

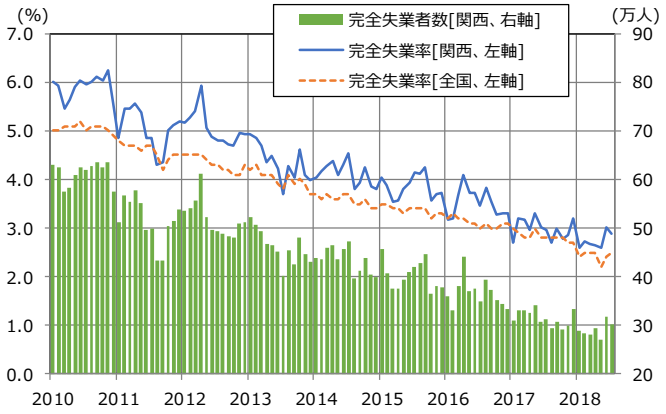
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
6月	1.62	1.58	1.39	1.57	1.74	1.43	1.47	1.28
7月	1.63	1.60	1.42	1.56	1.76	1.45	1.48	1.33
前月差	0.01	0.02	0.03	▲ 0.01	0.02	0.02	0.01	0.05

（2）完全失業率の推移

関西 7 月の完全失業率(季節調整値：APIR 推計)は 2.9%と前月比-0.1%ポイント小幅低下し、2 カ月ぶりに改善した。完全失業者数(季節調整値：APIR 推計)は 30.2 万人で前月比-1.5 万人と 2 カ月ぶりに減少した。内訳を見ると、就業者数が同+17.5 万人増加、非労働力人口は同-13.6 万人減少しており、雇用環境は堅調が続いている。

全国 7 月の完全失業率(季節調整値)は 2.5%と、前月比+0.1%ポイント上昇し 2 カ月連続の悪化となったが、依然として 2%半ばの低水準である。完全失業者数(季節調整値)は 172 万人で前月から+6 万人増加(2 カ月連続)。理由別にみると、「非自発的な離職」は同+1 万人、「自発的な離職(自己都合)」が同横ばい、「新たに求職」は同+3 万人増加した。

完全失業率の推移(2010 年 1 月～2018 年 7 月)



(出所)総務省「労働力調査」

【公共投資・建設工事】

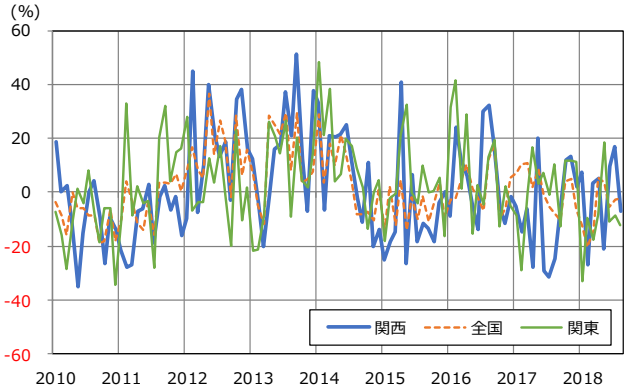
（1）公共工事請負金額

関西 8 月の公共工事請負金額は 954 億円で前年同月比-7.1%と 3 カ月ぶりのマイナスに転じた。工事場所別にみると、奈良県(同+11.6%)、和歌山県(同+30.8%)で増加した。一方、滋賀県(同-39.3%)、京都府(同-28.7%)、大阪府(同-5.5%)、兵庫県(同-1.5%)で減少した。今後、6 月 18 日に発生した大阪府北部地震、9 月 4 日に発生した台風 21 号の復旧・復興関連作業で、関西の公共工事請負金額が増えると見込まれる。

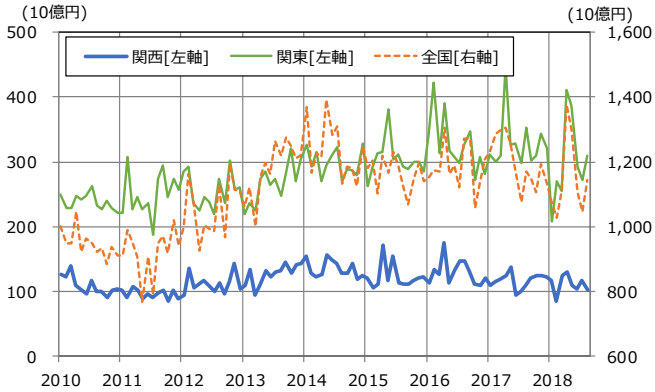
一方、関東は 2,940 億円で前年同月比-12.3%と 3 カ月連続の減少。全国は 1 兆 1,241 億円で同-2.2%と 3 カ月連続の減少であった。

季節調整値(APIR 推計)で見ると、関西は前月比-13.5%と 2 カ月ぶりのマイナス。全国は同+9.5%と 4 カ月ぶりのプラス。関東も同+13.8%と 4 カ月ぶりのプラスであった。関西の請負金額(7-8 月平均)を 4-6 月平均と比較すれば、-4.2%減少した。

公共工事請負金額(伸び率)の推移(2010 年 1 月～2018 年 8 月)



公共工事請負金額(季調値)の推移(2010 年 1 月～2018 年 8 月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

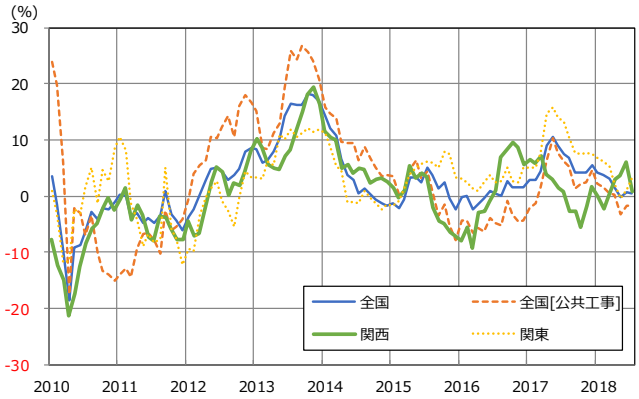
（2）建設工事

関西 7 月の建設工事出来高は 5,047 億円となり、前年同月比+0.9%と 5 カ月連続の増加。関東は 1 兆 5,827 億円で同+3.0%と 2 カ月連続のプラスとなった。大阪北部地震、

台風 21 号からの復旧・復興工事で、今後も増加すると考えられる。

全国 7 月の建設工事出来高は 4 兆 2,640 億円となり、前年同月比+0.5%と 2 カ月連続のプラス。うち、公共工事は 1 兆 5,402 億円で同-1.8%と 3 カ月連続のマイナスであった。

建設工事出来高の推移(2010 年 1 月～2018 年 7 月)



(注) 2016 年 4 月分より新推計に基づく出来高の参考値を反映。
(出所)国土交通省「建設総合統計」

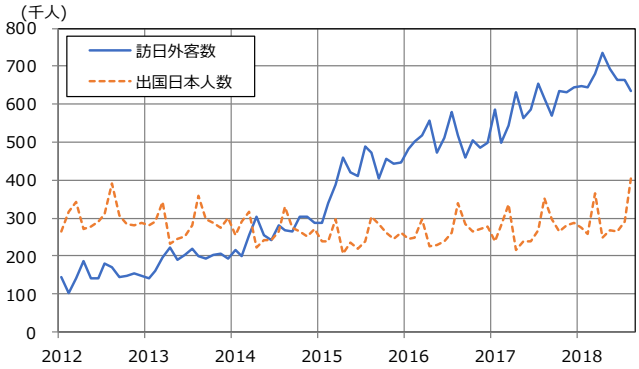
【関空モニター】

（1）訪日外客数トレンド

8 月の関空への外国人入国者数は 63 万 5,448 人と引き続き高水準で推移しているが、伸びは前年同月比+3.2%であった。18 カ月連続で増加が続いているものの、2 カ月連続で 1 桁の伸びにとどまった。大阪北部地震や西日本豪雨等による影響から、伸びは低調であった。外国人出国者数は 67 万 1,012 人と同+2.6%増加であった。結果、外国人出入国者数は 130 万 6,460 人と同+2.9%の増加であった。

また、日本人出国者数は 40 万 4,980 人で、前年同月比+14.7%と 6 カ月連続で増加し、前月(同+8.2%)から加速した。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2012 年 1 月～2018 年 8 月)



(出所) 一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

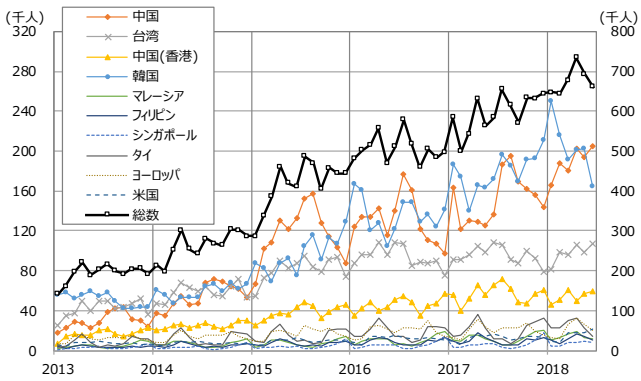
（2）地域別訪日外客数

関空訪日外客数を国籍別・地域別にみると、6 月は中国(香港除く)からの入国者数が 20 万 5,336 人(前年同月比+50.4%)となり、2 カ月ぶりに最多であった。次いで、韓国が 16 万 4,629 人(同-4.1%)、台湾が 10 万 7,451 人(同-1.2%)と、香港が 5 万 9,602 人(同-9.8%)であった。台湾からの入国者数は 3 カ月ぶり、香港からは 2 カ月ぶりの減少だが、韓国からは 2014 年 6 月以来 4 年ぶりの減少。大阪北部地震のため訪日を控えた旅行者が多かったとみられる。

他のアジア各国は、タイが 1 万 3,596 人(前年同月比+11.5%)、マレーシアが 1 万 2,092 人(同+25.9%)、フィリピンが 1 万 711 人(同+20.3%)、シンガポールが 8,459 人(同+31.1%)であった。

他地域を見ると、ヨーロッパでは 2 万 343 人(前年同月比+17.2%)、米国が 2 万 2,048 人(同+34.7%)であった。

地域別訪日外客数(右軸：総数、左軸：各国、2018 年 6 月まで)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

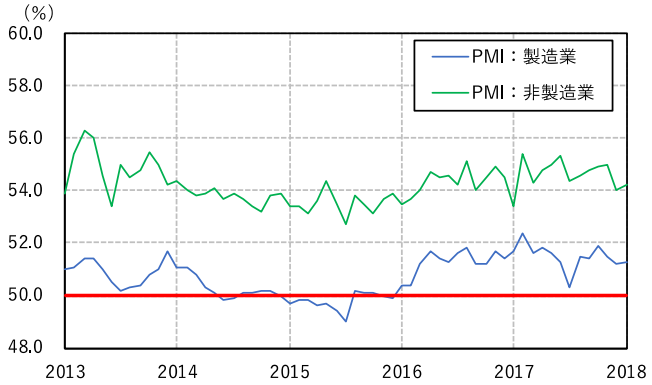
【中国景気モニター】

（1）センチメント

8 月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は 51.3 となり、前月比+0.1%ポイント上昇し、3 カ月ぶりの小幅改善。また、25 カ月連続で景気の分岐点である 50 を上回った。非製造業 PMI は 54.2 となり、同+0.2%ポイント上昇し、2 カ月連続の改善であった。

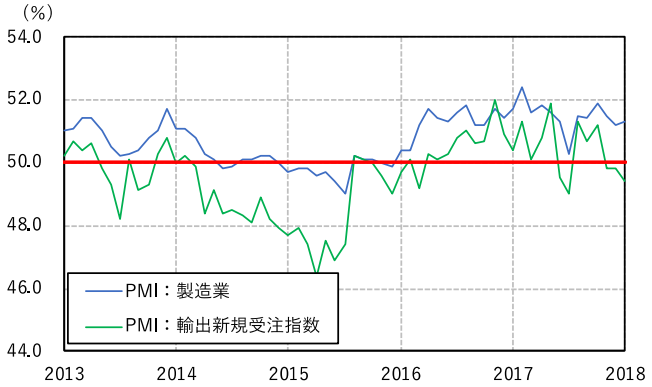
製造業 PMI のうち、生産指数は 53.3 となり、前月より+0.3%ポイント上昇し、3 カ月ぶりの改善。輸出新規受注指数は 49.4 と同-0.4%ポイント低下した。3 カ月連続で改善しておらず、また 50 を下回っている。雇用指数は同+0.2%ポイントの 49.4 となり、2 カ月連続で改善したものの、17 カ月連続で 50 を下回っている。

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2013 年 8 月～2018 年 8 月)



（出所）中国国家統計局; CEIC データベース

製造業購買担当者景況指数(2013 年 8 月～2018 年 8 月)



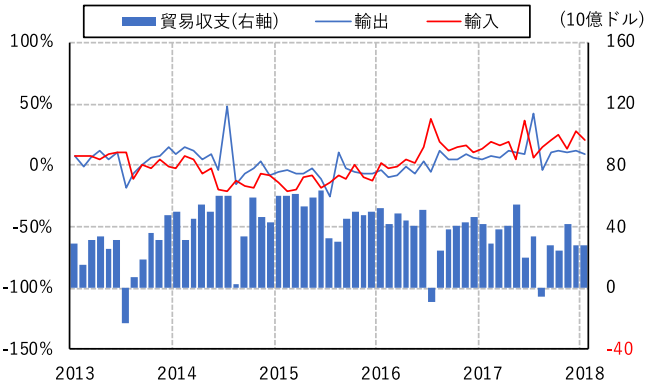
（出所）中国国家統計局; CEIC データベース

（2）貿易動向

8 月の貿易収支は 279.1 億ドルで 5 カ月連続の黒字となった。輸出額(速報値，ドル・ベース)は 2,174.3 億ドルと前年同月比+9.1%となり、5 カ月連続の増加。輸入額は 1,895.2 億ドルとなり、同+20.4%と 22 カ月連続で増加した。

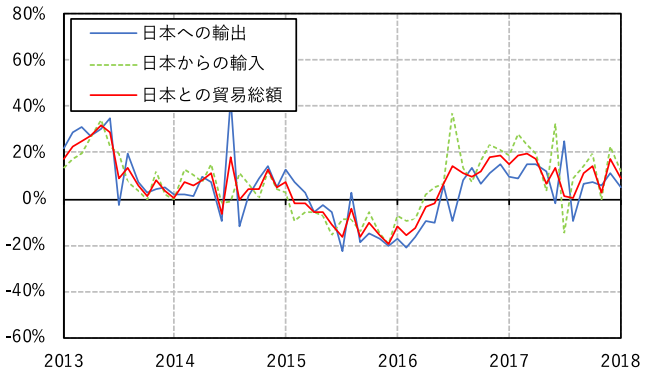
また、対日貿易収支は-41.7 億ドルとなり、19 カ月連続の赤字となった。対日輸出額は 115.8 億ドルとなり、前年同月比+3.8%と 5 カ月連続の増加。対日輸入額は 157.5 億ドルとなり、同+10.5%で 6 カ月連続の増加。なお、円ベースでみると、対日輸出額は同+4.9%と 5 カ月連続の増加。また、対日輸入額は同+11.6%と 2 カ月連続で増加した。

中国の貿易動向(ドル・ベース，2013 年 8 月～2018 年 8 月)



（出所）中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

日本との貿易(円ベース，2013 年 8 月～2018 年 8 月)



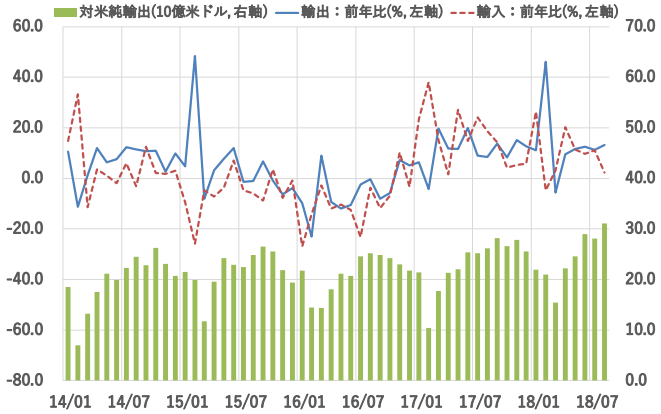
（出所）中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

[最近の対米貿易関係]

3 月に米国が発動した鉄鋼・アルミ関税に対抗して、中国や EU は報復関税を実施した。以降、今後紛争の深刻化を見越した駆け込み輸出増により、中国の対米貿易黒字は大幅に拡大し、8 月には 310.5 億ドルと過去最高額を記録した。同月の対米輸出額は 443.9 億ドルと前年同月比+13.2%で、5 カ月連続の増加。一方、対米輸入額は 133.3 億ドルとなり、同+2.3%と 6 カ月連続のプラスも小幅の増加にとどまった。

9 月 24 日に発動された第 3 弾の制裁関税は中国からの輸入品(2 千億ドル)を対象としている。具体的な品目としては家具や家電などに 10%の関税を上乗せし、2019 年以降は 25%まで引き上げるとされている。その制裁の報復として、中国は同 24 日、即座に米国からの 600 億ドル分の輸入品(税委会公告[2018]6 号に乗せた商品)に対して、5～10%の関税を課すことを公表した。貿易戦争はこのまま長期化する可能性が高く、年後半にかけて影響が顕在化すると見られる。

対米輸出入の動向(2014 年 1 月～2018 年 8 月)



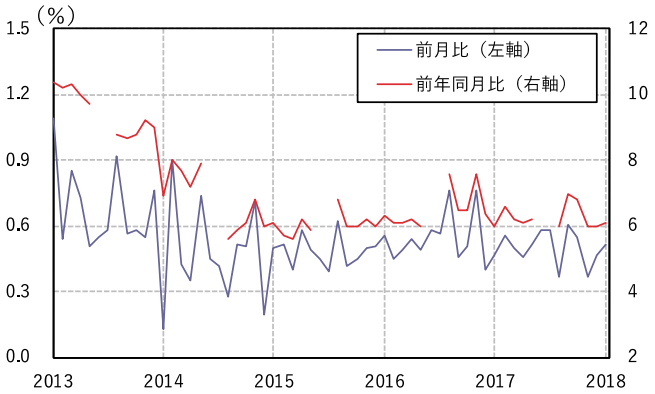
(出所) 中国国家統計局; CEIC データベース

（3） 工業生産

8 月の工業生産は前月比+0.52%となり、伸びは前月から+0.05%ポイント上昇した。また、前年同月比+6.1%と前月から+0.1%ポイント上昇し、4 カ月ぶりに加速した。

産業別に見ると、パソコン・通信設備製造業(前年同月比+17.1%)、 電力・熱力生産・供給業(同+10.0%)、専用設備製造業(同+9.8%)などが高い伸びを示す一方で、電気機械・機材製造業(同+3.3%)、ゴム・プラスチック製品製造業(同+2.0%)、自動車製造業(同+1.9%)などは、比較的低調な伸びにとどまった。また、繊維工業は前月比横ばい、鉄道・輸送機器製造業(同-0.5%)では減産となった。

工業生産指数(2013 年 8 月～2018 年 8 月)



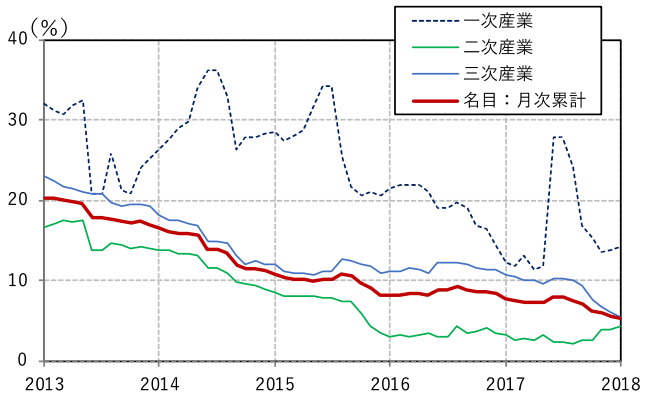
(出所) 中国国家統計局; CEIC データベース

（4） 固定資産投資

1-8 月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+5.3%となり、1-7 月期(同+5.5%)より-0.2%ポイント低下し、6 カ月連続で減速した。

また、第 1 次産業は前年同期比+14.2%増加し、伸びは前月から+0.5%ポイント加速した(2 カ月連続)。第 2 次産業は同+4.3%と前月から+0.4%ポイント加速した(3 カ月連続)。第 3 次産業は同+5.5%で、伸びは前月から-0.5%ポイント減速した(6 カ月連続)。

固定資産投資(産業別)累積伸び率(2013 年 8 月～2018 年 8 月)

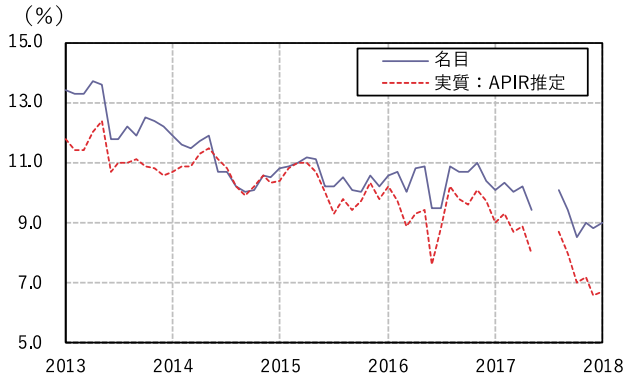


(出所) 中国国家統計局; CEIC データベース

（5）消費

8 月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比+9.0%となり、伸びは前月から+0.2%ポイント上昇した。また、社会消費品小売総額の実質値(APIR 推計)をみると、伸びは同+6.7%と前月から+0.1%ポイント小幅上昇した。

社会消費品小売総額(2013 年 8 月～2018 年 8 月)

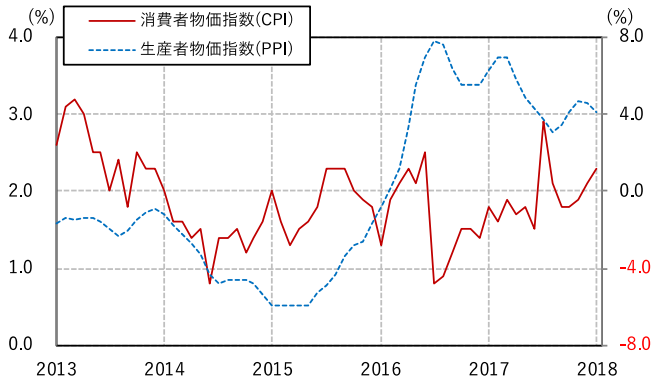


（出所）中国国家統計局; CEIC データベース

（6）物価水準

8 月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+2.3%で、伸びは前月から+0.2%ポイント上昇し、3 カ月連続で加速している。うち、食品価格は同+1.7%上昇し、CPI への寄与度は 0.33%ポイントであった。また、非食品価格は同+2. 5%上昇しており、CPI への寄与度は 1. 98%ポイントであった。

消費者物価指数・生産者物価指数(2013 年 8 月～2018 年 8 月)



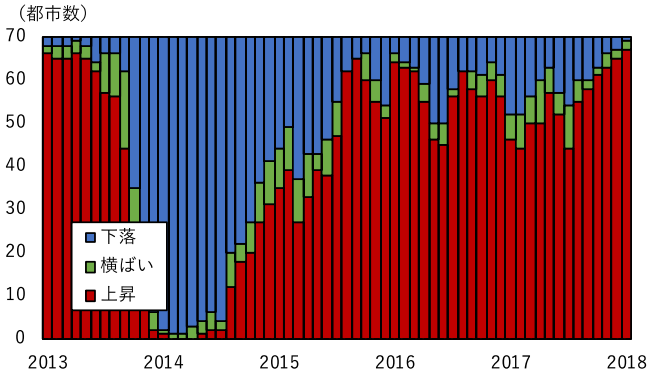
（出所）中国国家統計局; CEIC データベース

また、生産者物価指数(PPI)は前年同月比+4.1%となり、前月から-0.5%ポイント下落し、2 カ月連続で減速した。うち、生産財(生産資料)価格は同+5.2%上昇し、前月から-0.8%ポイント減速した。消費財(生活資料)価格は同+0.7%上昇し、前月から+0.1%ポイント加速した。

（7）不動産市場

8 月の不動産市場は前月に続き好調である。不動産価格(新築住宅価格)をみると、中国主要 70 都市のうち、住宅価格が上昇した都市数は 67 で前月から 2 都市増加した。6 カ月連続のプラス。一方、下落した都市数は 1 で前月から 2 都市減少した。4 カ月連続のマイナス。また、横ばいの都市数は 2 で前月から横ばいであった。

新築住宅価格の主要都市集計(2013 年 8 月～2018 年 8 月)

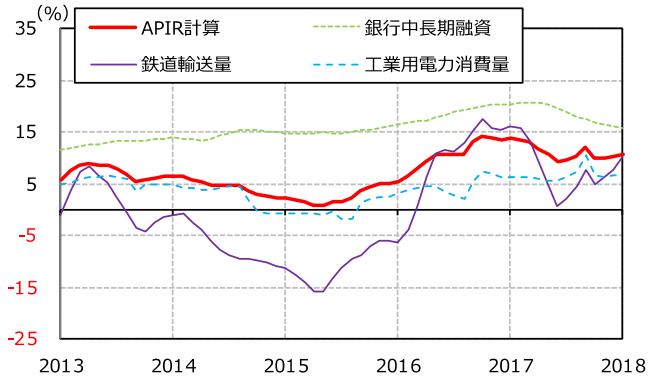


（出所）中国国家統計局; CEIC データベース

（8）リコノミクス指数

7 月のリコノミクス指数(APIR 試算)は前年同月比+10.7%と前月から+0.5%ポイント上昇した。内訳をみると、銀行中長期融資は同+15.7%となり、伸びは前月から-0.3%ポイント低下し、10 カ月連続の減速。鉄道輸送量は同+10.2%となり、伸びは前月から+2.4%ポイント上昇し、3 カ月連続の加速。工業用電力消費量は同+6.7%となり、伸びは前月から横ばいであった。

APIR 試算のリコノミクス指数とその内訳(2018 年 7 月まで)



（出所）中国国家統計局; CEIC データベース

Contact：木下祐輔・生田祐介・Cao Thi Khanh Nguyet・馬騰
Tel. 06-6485-7694
E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月　次　統　計	17/6M	17/7M	17/8M	17/9M	17/10M	17/11M	17/12M	18/1M	18/2M	18/3M	18/4M	18/5M	18/6M	18/7M	18/8M
景　況　感															
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	51.7	52.2	51.2	51.8	53.3	55.2	56.2	52.4	50.7	50.1	50.1	47.5	48.6	46.7	49.6
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	51.6	49.7	50.6	49.6	55.6	51.7	49.9	53.4	51.0	52.3	52.1	50.8	52.4	50.8	51.2
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	50.0	49.9	50.0	51.1	52.0	54.1	53.9	49.9	48.6	48.9	49.0	47.1	48.1	46.6	48.7
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	50.5	50.5	51.2	51.1	54.5	53.4	52.7	52.4	51.4	49.6	50.1	49.2	50.0	49.0	51.4
消　費　者　心　理　・　小　売															
[関西]消費者態度指数(原数値)	43.2	43.2	43.2	43.1	43.6	43.8	43.4	44.4	43.2	42.9	42.9	43.2	43.3	42.9	43.2
[関西]〃暮らし向き(原数値)	41.3	41.0	41.0	41.7	41.7	41.9	40.9	42.2	40.6	40.6	40.7	41.5	41.5	40.9	41.2
[関西]〃収入の増え方(原数値)	41.6	41.2	41.8	41.8	41.8	41.9	41.0	42.7	41.8	41.1	41.6	42.1	41.7	41.8	41.8
[関西]〃雇用環境(原数値)	47.9	47.6	47.6	45.9	47.9	48.2	49.1	49.3	48.2	48.5	47.4	47.1	47.4	47.0	47.9
[関西]〃耐久消費財の買い時判断(原数値)	41.8	42.9	42.5	42.8	43.0	43.3	42.7	43.4	42.2	41.3	41.7	42.1	42.4	41.9	41.7
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	43.3	43.9	43.3	44.1	44.4	44.6	44.6	44.6	44.3	44.3	43.6	43.8	44.1	43.5	43.3
[関西]大型小売店販売額(10億円)	304.9	339.1	305.4	293.8	310.3	329.4	410.6	332.9	286.3	316.9	305.1	302.8	306.5	331.0	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	0.3	-0.1	0.8	3.4	-0.2	1.7	1.0	0.6	-0.1	1.0	0.2	-2.0	0.5	-2.4	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,569.4	1,717.9	1,565.5	1,496.8	1,588.8	1,671.3	2,092.1	1,682.6	1,456.5	1,635.1	1,556.2	1,566.4	1,603.0	1,700.2	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	0.1	-0.2	0.7	1.8	-0.5	1.4	1.2	0.5	0.5	0.2	-0.1	-1.4	2.1	-1.0	UN
住　宅　・　建　設															
[関西]新設住宅着工(戸数)	12,002	12,601	11,790	11,354	12,164	11,764	10,224	9,196	11,387	10,788	13,392	14,140	11,737	12,151	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比%)	-5.4	-3.3	1.8	-0.7	-1.5	-4.0	-7.7	-19.4	7.0	-8.5	13.4	27.2	-2.2	-3.6	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	87,456	83,234	80,562	83,128	83,057	84,703	76,751	66,358	69,071	69,616	84,226	79,539	81,275	82,615	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比%)	1.7	-2.3	-2.0	-2.9	-4.8	-0.4	-2.1	-13.2	-2.6	-8.3	0.3	1.3	1.3	-7.1	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	77.6	71.7	78.2	76.6	75.6	76.9	78.6	81.9	84.9	67.1	70.4	66.6	73.1	72.1	78.8
[関西]マンション契約率(原数値)	80.2	73.6	80.0	74.5	74.2	77.7	74.9	78.1	83.9	67.3	71.0	69.5	75.6	74.0	80.6
[首都圏]マンション契約率(季節調整値)	65.2	66.4	68.6	66.8	65.7	68.1	74.0	68.1	63.5	73.0	63.3	61.0	64.1	62.6	64.9
[首都圏]マンション契約率(原数値)	67.2	71.9	68.2	64.9	60.7	67.9	72.5	65.2	65.0	74.7	63.0	62.2	66.0	67.8	64.5
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	122.4	120.3	102.7	139.4	129.9	85.4	97.5	65.4	49.8	122.2	211.7	116.4	134.5	140.9	95.4
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比%)	-29.2	-31.3	-24.7	-8.1	11.7	13.2	1.8	7.5	-26.9	3.4	4.9	-21.0	9.9	17.1	-7.1
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	1,518.5	1,288.8	1,149.4	1,319.1	1,171.2	863.3	797.3	610.1	613.9	1,269.7	2,177.7	1,285.7	1,433.9	1,252.0	1,124.1
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比%)	-0.6	-5.4	-7.9	-10.4	3.9	5.0	-6.4	-12.8	-20.2	-14.5	5.5	3.5	-5.6	-2.9	-2.2
[関西]建設工事(総合、10億円)	483.7	500.3	516.6	536.8	547.9	586.5	608.9	589.9	570.2	558.6	484.7	482.3	513.4	504.7	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比%)	1.5	0.8	-2.6	-2.7	-5.6	-1.8	1.6	0.0	-2.2	0.2	2.9	3.7	6.2	0.9	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4,095.9	4,241.2	4,471.7	4,689.1	4,902.6	4,970.9	5,054.8	4,929.2	4,808.8	4,751.6	3,960.9	3,893.5	4,124.0	4,264.0	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比%)	9.0	7.5	6.8	4.1	4.2	4.3	5.4	4.3	3.7	3.1	1.5	-0.2	0.7	0.5	UN
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	1,505.1	1,568.4	1,711.7	1,876.0	2,043.9	2,085.1	2,164.5	2,094.8	2,041.1	2,047.6	1,455.3	1,380.9	1,479.7	1,540.2	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比%)	7.7	6.1	5.3	1.4	2.2	2.5	4.6	2.2	1.6	0.5	0.3	-3.3	-1.7	-1.8	UN
生　産															
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	108.1	106.7	110.9	103.4	105.7	108.9	110.7	103.1	105.9	108.3	113.9	106.7	107.7	105.7	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	2.3	-1.3	3.9	-6.8	2.2	3.0	1.7	-6.9	2.7	2.3	5.2	-6.3	0.9	-1.9	UN
[関西]〃出荷指数(原数値、前年同月比%)	5.4	2.3	6.2	-3.6	0.1	1.6	1.3	1.6	-0.8	1.2	5.1	3.5	-1.7	1.1	UN
[関西]〃在庫指数(原数値、前年同月比%)	1.4	3.7	3.6	2.9	7.8	10.2	9.7	6.8	5.6	8.2	3.5	1.0	0.7	-1.5	UN
[関西]〃出荷指数(季節調整値、10年=100)	106.0	103.7	107.9	100.5	102.2	107.8	108.3	101.1	104.1	104.7	111.1	105.6	105.9	103.0	UN
[関西]〃出荷指数(季節調整値、前月比)	2.6	-2.2	4.1	-6.9	1.7	5.5	0.5	-6.6	3.0	0.6	6.1	-5.0	0.3	-2.7	UN
[関西]〃在庫指数(季節調整値、10年=100)	122.0	122.9	124.0	124.3	124.9	121.2	122.9	122.9	121.9	127.0	127.2	125.5	122.9	121.0	UN
[関西]〃在庫指数(季節調整値、前月比)	-1.9	0.7	0.9	0.2	0.5	-3.0	1.4	0.0	-0.8	4.2	0.2	-1.3	-2.1	-1.5	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	101.9	101.6	102.9	102.3	102.8	103.5	105.4	100.7	102.7	104.1	104.6	104.4	102.5	102.3	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	1.2	-0.3	1.3	-0.6	0.5	0.7	1.8	-4.5	2.0	1.4	0.5	-0.2	-1.8	-0.2	UN
[全国]〃出荷指数(原数値、前年同月比%)	5.3	4.1	5.8	1.6	2.8	2.4	4.3	2.2	0.7	1.4	3.6	3.3	-0.2	1.2	UN
[全国]〃在庫指数(原数値、前年同月比%)	-2.8	-2.3	-2.9	-2.5	1.9	2.8	1.9	1.5	1.6	3.9	1.7	2.5	2.4	2.8	UN
[全国]〃出荷指数(季節調整値、10年=100)	100.5	100.1	101.6	99.8	99.4	101.3	103.3	98.7	100.3	101.5	103.1	101.5	101.8	99.8	UN
[全国]〃出荷指数(季節調整値、前月比)	1.6	-0.4	1.5	-1.8	-0.4	1.9	2.0	-4.5	1.6	1.2	1.6	-1.6	0.3	-2.0	UN
[全国]〃在庫指数(季節調整値、10年=100)	108.9	108.2	107.6	107.4	110.5	109.8	109.8	109.3	109.9	113.5	112.8	113.5	111.4	111.2	UN
[全国]〃在庫指数(季節調整値、前月比)	-1.6	-0.6	-0.6	-0.2	2.9	-0.6	0.0	-0.5	0.5	3.3	-0.6	0.6	-1.9	-0.2	UN
労　働															
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	1.9	0.2	1.4	2.1	1.4	1.3	1.7	1.3	0.8	1.6	1.2	1.4	0.5	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比%)	1.6	0.3	1.6	2.2	1.6	1.4	1.9	1.9	1.0	1.8	1.8	2.1	0.4	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比%)	0.4	-0.6	0.7	0.9	0.2	0.9	0.9	1.2	1.0	2.0	0.6	2.1	3.3	1.6	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	3.0	3.0	2.7	3.0	2.8	2.9	3.2	2.6	2.7	2.7	2.7	2.6	3.0	2.9	UN
[関西]完全失業率(原数値)	3.0	3.1	2.9	3.2	2.8	2.6	2.8	2.7	2.8	2.7	2.6	2.5	3.0	3.0	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.4	2.5	2.5	2.5	2.2	2.4	2.5	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	2.21	2.22	2.24	2.24	2.38	2.34	2.36	2.37	2.34	2.44	2.39	2.37	2.53	2.54	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	2.24	2.26	2.22	2.27	2.35	2.34	2.38	2.34	2.30	2.41	2.37	2.34	2.47	2.42	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.45	1.46	1.46	1.47	1.49	1.51	1.52	1.54	1.54	1.57	1.56	1.56	1.58	1.60	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.50	1.51	1.52	1.53	1.55	1.56	1.59	1.59	1.58	1.59	1.59	1.60	1.62	1.63	UN
国　際　貿　易															
[関西]純輸出(10億円)	172.4	135.1	161.9	249.8	160.1	162.8	256.1	-54.7	133.6	368.4	236.3	82.6	268.1	85.6	179.6
[関西]輸出(10億円)	1,383.9	1,329.4	1,382.4	1,482.4	1,425.3	1,520.4	1,589.4	1,303.4	1,353.5	1,607.2	1,443.2	1,402.7	1,520.9	1,433.8	1,519.3
[関西]輸出(前年同月比%)	8.0	10.8	17.4	17.3	14.4	21.5	12.0	19.5	0.0	8.9	8.1	13.2	9.9	7.9	9.9
[関西]輸入(10億円)	1,211.5	1,194.3	1,220.5	1,232.6	1,265.2	1,357.6	1,333.4	1,358.1	1,220.0	1,238.8	1,207.0	1,320.1	1,252.8	1,348.3	1,339.7
[関西]輸入(前年同月比%)	14.3	16.9	12.7	11.1	20.8	15.5	18.0	5.5	22.3	-1.2	4.0	15.3	3.4	12.9	9.8

注：鉱工業生産 輸送機械工業は鋼船・鉄道車両除く。

Release Calendar for August/September

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
20-Aug 出入国者数(7 月)	21-Aug	22-Aug 毎月勤労統計調査 (6 月:確報値)	23-Aug	24-Aug 出入国管理統計(6 月)
27-AUg	28-Aug 近畿地域鉱工業生産動向（6 月:確報） 消費動向調査（7 月)	29-Aug	30-Aug 貿易統計 (6 月:確報値) 貿易統計 (7 月:確・速) 商業動態統計 (7 月:速報値)	31-Aug 鉱工業指数 (7 月:速報値) 一般職業紹介状況 (6 月) 労働力調査（6 月) 中国製造業 PMI (8 月) 建築着工統計調査 (7 月)
3-Sep	4-Sep	5-Sep	6-Sep	7-Sep 毎月勤労統計調査 (7 月:速報値)
10-Sep 近畿圏貿易概況 (6 月:確報値) * 近畿圏貿易概況 (7 月:確・速) * 景気ウォッチャー調査（8 月) 中国 CPI&PPI (8 月) 中国輸出入 (8 月: 速報値)	11-Sep 近畿地域鉱工業生産動向（7 月:速報）	12-Sep	13-Sep 商業動態統計 (7 月:確報値) マンション市場動向 (8 月)	14-Sep 鉱工業指数 (7 月:確報値) 公共工事前払金保証統計（8 月) ** 中国固定資産投資 (8 月) 中国工業生産 (8 月) 中国消費品小売総額 (8 月) 中国不動産市場 (8 月)
17-Sep	18-Sep 建設総合統計（7 月)	19-Sep 貿易統計 (8 月:速報値) 近畿圏貿易概況 (8 月:速報値)	20-Sep 出入国者数(8 月) *	21-Sep 毎月勤労統計調査 (7 月:確報値)
24-Sep 中国輸出入 (8 月:確定値)	25-Sep 出入国管理統計(6 月)*	26-Sep	27-Sep 貿易統計 (7 月:確報値) 貿易統計 (8 月:確・速)	28-Sep 鉱工業指数 (8 月:速報値) 商業動態統計 (8 月:速報値) 建築着工統計調査 (8 月)

*印は発表予定日が未定。 **公表日は翌日。